

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	70 地域振興事務経費(ふるさと夏まつり助成金)	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
基本 施策	61 市内外から多様な主体を受け入れる、開かれたまちをつくる	目	06	企画費
		細目	122	地域振興経費
		細々目	01	地域振興事務経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部課	コード	700100	担当者氏名	谷口 啓樹
	名称	大山田支所振興課		連絡先 47 - 1150 (内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	大山田ふるさと夏まつり実行委員会	※対象件数
成果(どうする)	大山田ふるさと夏まつり実行委員会が主催する事業の開催。大山田地域の活性化及び伝統(S53から開催)や文化(くれは太鼓、ふるさと音頭)の伝承が図れる。	
根拠法令・要綱等	伊賀市支所補助金交付要綱	
開始年度	平成 S53 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H22 事業内容	下記事業に助成を行った。 第33回大山田ふるさと夏まつり 会場: 大山田せせらぎ運動公園 主催: 大山田ふるさと夏まつり実行委員会 日時: 平成22年9月15日(日) 内容: お祭り太鼓、ふるさと音頭、各種団体出店、創作花火等 来場者: 約6300人	
社会情勢の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
実行委員会参画団体		団体	目標 16	目標 17	17	17
			実績 16	実績 17		
実行委員会開催回数		回	目標 7	目標 7	3	3
			実績 7	実績 3		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
来場者数		来場者数により事業のPRの可否を見ることができる	人	目標 6000	目標 6000	6000	6000
				実績 6000	実績 6300		
				目標	目標		
				実績	実績		

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの 財源 内訳	国庫支出金	2,082	2,082	1,880	1,880
	県支出金				
	地方債				
	その他	0	0	0	0
	一般財源	2,082	2,082	1,880	1,880
	事業投入人件費(B)	0.3人	2,160	0.1人	720
	フルコスト(A)+(B)	4,242	2,802	2,600	2,600

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対応し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
有効性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
	大山田ふるさと夏まつりは、お盆の帰省者のみならず、地元団体が作成する創作花火が目玉の納涼花火大会として34回を迎え、各団体から集まった実行委員が資金を寄せ、寄付金は住民及び企業からおよそ200万円である。	○
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合は、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高いサービス水準や対象を見直す余地がある。	○
	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	平成24年度までに、実行委員会の参加構成団体をより広範にするとともに住民自治協議会を中心に、それぞれが分担して企業協賛の依頼を行う。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 住民自治協議会に事務局を置き、実行委員会及び役員会で主体的に事業実施にいたる意思決定が行われた。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	西口 敏之
事業の方向性	【方向性】 内容変更
	【理由】 大山田地域の各種団体が構成される実行委員会による主体的な開催を支援し、地域住民の参画による地域の活性化を図っていく。
現時点における課題、その他	打ち上げ花火はすべて住民及び企業からの寄付金で賄っているが、寄付額が伸び悩んでいる中、市補助金も平成23年度から縮小しているため、引き続き開催していくためには一層の工夫が求められる。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	収入縮小の中でも例年同様の成果が得られるよう内容を工夫し、平成23年度も夏まつりを開催する。